

身に変化はあったのだろうか。
「若い頃は大きな会社で働いてきたこともあり、いまより生意気だったような気がします（笑い）。現在は、元気に

年代の違う人との交流が 若々しくいられる秘訣

関美保さん(68才)の場合

関さんは、東京ガスライフバルで25年間働き、65才の退職直後、高齡社に登録した。現在は、給湯暖房システム「TES」や家庭用燃料電池「エネファーム」の修理・点検を行う都内の企業で、週3

働けるだけで恵まれているなと実感していますので、感謝の思いしかありません」
生きがいが働きたいにつながる、好例だ。

日、朝8時45分から夕方5時30分まで勤務している。

「先輩から評判を聞いていたので、すぐに登録しました。週3日勤務の希望に加えて、前職と業務内容も近く、自宅から30分で通える現在の会社



と出合え、本当にラッキーでした。

業務は、お客さまからの電話対応です。不具合の状況を伺い、コンピューターを使ってメンテナンス員の手配もを行います。曖昧なことを言ってお客さまや会社に迷惑をかけるまいよう、神経は使います

仕事中の関さん。「お客さまからの問い合わせは休みがないので、緊急事態宣言中も出社していました。」

ね」と関さん。働くのは、大好きな卓球のためだ。

「30代でママさん卓球を始め、仲間とチームを作って全国大会にも出ました。シニアになつたいまも強くなりましたので、週に1度、個人コーチについています。コーチ費用がかかりますから、いま働けるのはありがたいですね」

(関さん・以下同)

卓球は「働く糧」だと断言する。コーチ、所属チームでの練習、試合などがあるため、週3日の勤務は、「元気に働く

のにベストなペースだという。また、「その日与えられた仕事を達成すれば合格」という気楽さが、現役とは違う点だ。

「わからないことがあれば、すぐに教育係の若い人に聞きます。年齢に関係なくみなさんフランクで、仕事に行くことが楽しい。年代の違う人たちと交流できるのも、若々しく元気でいられる秘訣かもしれませんね」

社長の村関さんが「幸せな老後のための要素」として挙げた「社会とのつながり」。その重要性を感じる言葉だった。

左藤愛子 定価660円(税別) 大反響発売中

22.6.2 女性セブン 118